

「豊かな心」を育てる読書指導

～読書に親しむ子を育てる活動の工夫～

新潟県柏崎市立大洲小学校

なかやまひろみち
(代表執筆) 中山博迪

【実践の内容】

子どもの「読書離れ」や「コミュニケーション能力の不足」などが社会問題化している。

大洲小学校では「豊かな心」を育てるために、家庭や地域との連携を最重要課題とし、読書時間の確保をはじめ、子どもたちが意欲をもって取り組むために多様な読書活動を取り入れたり、読書環境の整備充実を図ってきた。

【論文内容の紹介】

1 全体計画づくり

すべての教育活動を通して心を育てようと、「心の教育プラン」を作成した。さらに、読書活動を中核にしながら、心を育てようと、「読書指導のグランドデザイン」を作成し、全職員で取り組めるようにした。

また、他校にはない恵まれた教育環境（五十嵐記念館や「さくらホーム大洲」）などを生かした活動計画も考えた。

2 多様な読書活動の機会や読書時間の確保

読書の面白さや楽しさをわからせるために「多様な読書活動」を取り入れた。さらに学校生活の中での「読書時間」の確保に努めた。

例えば授業の中で、ブックトーク、アニメーション、パネルシアター、エプロンシアター、読書クイズなどを行った。また、校時表を工夫して、毎朝15分の読書タイム（火曜日を除く）、昼の読書（毎週火曜日）……「わくどき読書」（担任の読み聞かせ）や「きらめき読書」（担任以外の読み聞かせ）を設定した。

3 人との関わりの中で

「コミュニケーション能力」の育成を視野に入れての「人との関わり」を大切にしたい取

り組みを行ってきた。

(1) 保護者、市立図書館等との連携

読み聞かせボランティアサークル「ありす」の活動の場として、朝の読書、25分休み、昼休み、きらめき読書、授業などの時間を設定した。また市立図書館、大洲コミュニティセンターなどと連携して読み聞かせや昔話を聞く会などを行った。

(2) 「さくらホーム大洲」との交流

毎日、休み時間になると校舎内にある「さくらホーム大洲」に子どもたちが集まり、交流している。また、国語学習の発展として音読や劇を発表したり、手づくり紙芝居や読み聞かせを行ったりしている。

(3) 大洲保育園児への読み聞かせ

総合的な学習の時間を使い、3年生が大洲保育園へ出かけ読み聞かせを行った。お互いの心と心が繋がった有意義な時間を過ごせた。

(4) 下学年への読み聞かせ

4年生は、紙芝居ボランティアとして、入学したての1年生に紙芝居を読んで聞かせた。

4 五十嵐記念館の整備・活用と地域への開放

3年前までは、記念館としての役割が中心であったが、PTA文庫を移動したり、地域に呼びかけてブックリサイクルを行ったり、また寄贈などにより多くの蔵書が整備され、第2図書館としての機能を果たすまでに充実してきた。また司書補助の配当により週1日ではあるが地域への開放もできるようになった。写真や絵画のサークルの展示会等にも活用するようになり、地域の交流図書館としての機能が高まってきた。

5 成果と今後の課題

読書環境の整備充実や感動を自らの力で豊かに表現できるように、読書活動や授業の在り方などを追究してきた。朝の読書などの設定で、落ち着いた環境で学習を始めることができるようにもなった。さらに今後も、地域や行政を巻き込んでの取り組みを進めていかなければならない。